

日本産鳥類記録リスト (6)

日本産鳥類記録委員会*

日本産鳥類記録委員会では活動の一環として、記録が極端に少ない種について、引用可能な文献として公表されたものの調査・収集・整理を行い「日本産鳥類記録リスト」として随時学会誌を通じて公表を行っている。今回はウグイス科の10種について調査結果を報告する。なお、この報告は学会による記録公認を意味するものではなく、掲載されている記録の妥当性などについては未検討であることに注意されたい。リストに掲載されていない文献記録をご存知の方は、記録委員会にお知らせいただきたい。また、未発表の記録をお持ちの方は、ぜひ、引用可能な文献としての公表をお願いします。このリストの趣旨についての詳細は日本鳥学会誌 51(2): 132-133. 「日本産鳥類記録リスト」を参照されたい。委員会が過去に公表したリストや活動報告は、学会のホームページ (<http://www.soc.nii.ac.jp/osj/>) にて閲覧可能なので、そちらもご覧いただきたい。

32. ヤチセンニューウ *Locustella naevia*

日本鳥類目録改訂第6本文には掲載されておらず、Appendix B 検討中の種・亜種にも含まれていない。本委員会の調査により、文献上2例の記録が確認されたが、1例は誤同定による記録であり、実際にはマキノセンニューウ *L. lanceolata* であることが明らかになっている。もう1例も同様の誤同定と考えられるので、日本国内でのヤチセンニューウの記録は、今のところ確認されていないことになる。従って、表は掲載しない。

記録1 (Nechaev 1969) は、南千島国後島で記録されたもので、1963年6月4日、Nechaev氏により採集された1個体に基づいている。この個体は、Nechaev (1969) によりヤチセンニューウ *L. naevia mongolica* と同定された。日本鳥学会 (1974) は、この記録を「付表2不確実な種と亜種の記録」(p. 363-364, 原文英語) と脚註 (p. 258) に掲載し、目録本文には採用しなかった。また、日本鳥学会 (1974) の脚註 (p. 258) には、本文に採用しなかった理由「日本から報告されているが、確認ができなかった」(原文英語) が掲載されている。Nechaev & Kurenkov (1991) は、この記録について「1963年6月4日ヴェスロフ半島で採集された *L. lanceolata* の標本の同定を間違えたため、*L. naevia*

(Goddaert) を間違って国後島の鳥類目録に加えた」と記述し、誤同定であったことを明らかにした。また、この記録は、ネチャエフ・藤巻 (1994) に掲載されていない。その理由を質問した藤巻裕蔵氏に対し Nechaev 氏が答えた私信の内容が、Nechaev (2001) に掲載されている。Nechaev (2001) には「1982年に私は再び国後島を訪れ、以前 *L. naevia* と同定した種を数羽採集し、私が南千島で採集した全ての *L. naevia* は、*L. lanceolata* であると、間違いを訂正するという結論に達した」との記述が掲載されている。

記録2 (Gizenko 1955) は、南千島色丹島で記録されたもので、1948年8月24日、Gizenko氏により採集された標本に基づいている。Nechaev (1969) によれば、この標本は、記録1の標本と「同じ」であり、ヤチセンニューウ *L. n. mongolica* と同定されていた。日本鳥学会 (1974) は、この記録を「付表2不確実な種と亜種の記録」(p. 363-364, 原文英語) に掲載し、目録本文には採用しなかった。Nechaev (2001) は、この記録の同定について具体的な言及はしていないが「結局、南千島(国後島、択捉島、色丹島、歯舞諸島、それに多分得撫島)には、羽色と大きさが *L. l. lanceolata* とは異なり、同時に *L. n. mongolica* と非常に似た亜種 *L. l. henderstonii* が分布することになる」との記述が掲載されていることから、記録2も記録1と同様の誤同定であったと考えられる。

引用文献

- Gizenko AI (1955) *Birds of the Sakhalin region*. USSR Acad. Sci., Moscow. (In Russian)
- Nechaev VA (1969) *The birds of the Southern Kuril islands*. Nauka, Leningrad. (In Russian) [日本語訳は以下の訳本の記述を引用した: ネチャエフ VA (1979) 南千島の鳥類. 日本鳥学会, 東京. (訳: 藤巻裕蔵)]
- Nechaev VA (2001) 国後島のヤチセンニューウについて. 極東の鳥類 18: 92-93. (訳: 藤巻裕蔵)
- ネチャエフ VA・藤巻裕蔵 (1994) 南千島鳥類目録(国後, 択捉, 色丹, 歯舞). 北海道大学図書刊行会, 札幌.
- Nechaev VA & Kurenkov VD (1986) New evidence on birds on the Kunashiri Island. In Neufeldt IA (ed.) *The distribution and biology of birds of the Altai and Far East*: 86-87. Proc. Zool. Inst. (150). (In Russian) [日本語訳は以下の訳を引用した: Nechaev VA & Kurenkov VD (1991) 国後島の鳥類の新知見. 極東の鳥類 6: 51-52. (訳: 藤巻裕蔵)].
- 日本鳥学会 (1974) 日本鳥類目録改訂第5版. 学習研究社, 東京.

33. ヒメウタイムシクイ *Hippolais caligata* (表1)

日本鳥類目録改訂第6本文には掲載されておらず, Appendix B 検討中の種・亜種にも含まれていない. 本委員会の調査により, 文献上1例の記録が確認された(表1).

記録1(渡部ら 2005)は, 石川県舩倉島にて記録されたもので, 記録時の状況と環境, 記録された個体の形態, 行動, 同定の根拠についての記述が掲載されている. 渡部ら(2005)は「本個体は舩倉島付近上空を通過中に台風通過に伴う悪天候に遭遇し, 島に降りたものと推定されるが, 本来の分布域から大きくはずれていた理由は不明である」としている. 渡部ら(2005)によれば, この記録が本種の日本初記録である. この記録は, 渡部(2001)にもスケッチおよび写真(渡辺良樹氏撮影)とともに詳細に記述されている. また, 日本野鳥の会石川支部(2001)は「石川県初記録詳解」(p. 49)で同記録を「石川県初記録」として掲載している. なお, 日本野鳥の会石川支部(2001)の「石川県初記録詳解」(p. 49)に第一発見者として掲載されている「佐々木祐子」氏は正しくは「佐々木裕子」氏である(渡部良樹氏私信).

引用文献(文献番号は, 表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. 日本野鳥の会石川支部(2001) 石川野鳥年鑑 2000. 日本野鳥の会石川支部, 金沢.

表1. ヒメウタイムシクイ *Hippolais caligata*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	1999.9.26-29	石川県	輪島市舩倉島	不明	—	1	渡部良樹, 佐々木裕子, 小林靖英	観察, 撮影	カラー2, 小林靖英	3	1, 2

—: 記述なし・掲載なし

表2. コノドジロムシクイ *Sylvia curruca*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	1994.10.11	北海道	函館市西桔 梗町	成鳥	不明	1	和田祥司, 佐藤理夫	捕獲, 撮影	モノクロ3, 和田祥司	8	1, 2, 3, 5, 9
2	1998.2.7-8	山形県	河北町	第一回 冬羽	—	1	真木広造, 築川堅治	撮影	モノクロ1, 築川堅治	6	3, 4
3 D	2002.12 -2003.1	北海道	根室市光洋 町	—	—	1	—	撮影	カラー1枚	7	3
4 D	2003.3	愛知県	—	—	—	—	—	—	—	3	

—: 記述なし・掲載なし

D: 最小限の記述(種名, 記録地, 年月日)のみ

2. 渡部良樹(2001) ヒメウタイムシクイの観察記録. 日本野鳥の会石川支部(編) 石川野鳥年鑑 2000: 61-62+口絵, 日本野鳥の会石川支部, 金沢.
3. 渡部良樹・佐々木裕子・小林靖英(2005) 日本におけるヒメウタイムシクイ *Hippolais caligata* の初記録. 山階鳥学誌 37(1): 14-19.

34. コノドジロムシクイ *Sylvia curruca* (表2)

日本鳥類目録改訂第6版では「論文として公表されていない, または公表されたが最終原稿に間に合わなかった」との理由から検討中の種として Appendix B に掲載されている. 本委員会の調査により, 文献上4例の記録が確認された(表2).

記録1(和田・佐藤 1998)は, 北海道函館市で記録されたもので, 記録された個体の形態, 同定の根拠などが掲載されている. 和田・佐藤(1998)によれば, この記録は本種の日本初記録であり, 鳥類標識調査の際に捕獲されたが足環をつけずに放鳥したとのことである. また, 和田・佐藤(1998)は, 本個体を分布と形態から「*S. c. blythi*である可能性が高い」とし, 「何らかの原因で大陸からの卓越する西および北西の風に影響を受けて迷行したものと考えられた」と考察している. 藤巻(2000)は, この記録を目録本文には採用せず, 「採用しなかった種・亜種」のリストに掲載している. この記録とその写真は, 無記名(1994), 山階鳥類研究所(1995), 五百沢ら(2000, 2004)にも掲

載されている。なお、山階鳥類研究所(1995)では、写真の撮影者が「和田祥時司氏」とされているが、これは、誤植と思われる。

記録2(無記名1998)は、山形県河北町で記録されたもので、記録年月日の他、記録された個体が第一回冬羽であること、発見者が真木広造氏であり、記録されたのが真木氏の家の庭であることなどが記述されている。この記録の写真は、真木・大西(2000)、五百沢ら(2004)にも掲載されているが、前者の写真のキャプションには「成鳥冬羽」、後者には「成鳥」と記されている。

記録3(根室市教育委員会2005)は、北海道根室市で記録されたもので、記録された個体については、本文に「2002.12~2003.1光洋町」との記述と冬季に迷行してきたことを示す記号のみが掲載されており、記録された個体のカラー写真(口絵に掲載)のキャプションに「根室市光洋町2003年1月」と掲載されている。この記録は、五百沢ら(2004)にも「北海道2003年1月」とのみ掲載されている。

記録4(五百沢ら2004)は、愛知県で記録されたもので、記録年月と記録地のみが掲載されている。この記録は、五百沢ら(2004)の他に掲載された文献はなく、直接観察者である伊丹英生、倉橋義弘の両氏により投稿準備中とのことである(倉橋義弘氏私信)。

引用文献(文献番号は、表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. 藤巻裕蔵(2000)北海道鳥類目録改訂2版。帯広畜産大学野生動物管理学研究室、帯広。
2. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸(2000)日本の鳥550山野の鳥。文一総合出版、東京。
3. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸(2004)日本の鳥550山野の鳥増補改訂版。文一総合出版、東京。
4. 真木広造・大西敏一(2000)決定版 日本の野鳥590。平凡社、東京。
5. 無記名(1994)本邦初記録のコノドジロムシクイが捕獲された! 北海道バンダー通信(46):1。
6. 無記名(1998)山形県初記録の野鳥372, コノドジロムシクイ(*Sylvia curruca*)。やませみ(51):8。
7. 根室市教育委員会(2005)根室市鳥類生息調査報告書。根室市教育委員会, 根室。
8. 和田祥司・佐藤理夫(1998)日本初記録コノドジロムシクイについて。鳥類標識誌13(1):8-10+口絵。
9. 山階鳥類研究所標識研究室(1995)平成6年度鳥類観測ステーション報告。山階鳥類研究所, 我孫子。

35. キタヤナギムシクイ *Phylloscopus trochilus* (表3)

日本鳥類目録改訂第6版では、記録として1例が挙げられており、この記録は亜種キタヤナギムシクイ *P. t. yakutensis* とされている。本委員会の調査により、文献上24例の記録が確認された(表3)。

記録1(茂田・尾崎1999)は、福岡県福岡市で記録されたもので、記録された経緯と亜種同定の根拠などが掲載されている。茂田・尾崎(1999)によれば、この記録は、ガラスに衝突死した個体に装着されていた足環番号をロシアの標識センターに問い合わせた結果、キタヤナギムシクイであることが判明したもので、個体そのものは「埋められたため確認はできていない」とのことである。また、茂田・尾崎(1999)は「放鳥地のカムチャッカ南部は本種の繁殖地ではなく、また、放鳥時期は繁殖期ではない」としながらも「3亜種の分布から標識個体は亜種 *yakutensis* であると考えられる」と結論づけている。この記録は、山階鳥類研究所標識研究室(1985)にも掲載されており、それによれば、この記録の根拠となった足環が山階鳥類研究所標識研究室に届けられたのは、死体が発見された3年後である。この記録は、無記名(1984)によって、ヤナギムシクイとして報じられたが、鳥学ニュース編集部(1985)によってキタヤナギムシクイに訂正されている。

記録2(森岡1998)は、石川県舳倉島で記録されたもので、記録された個体の形態と同定の根拠などが掲載されている。森岡(1998)は、この記録の個体について「本件のキタヤナギムシクイは基亜種 *trichilus* でないことは確かである。*yakutensis* であるのか、それと *yakutensis* に近い特徴をもつ *acredula* なのか、亜種の特定をすることは困難である」とし、亜種を確定していない。この記録は、最初、日本野鳥の会(1988)に広田博厚氏撮影の写真とともにキタヤナギムシクイとして掲載された。その後、日本野鳥の会野鳥記録委員会(1989)によって「キタヤナギムシクイである可能性は非常に高い」とされながらも、公式記録としては採用されなかったという経緯がある。しかし、日本野鳥の会石川支部(1998)にキタヤナギムシクイは「迷鳥として、舳倉島で1987年10月4日に1羽が観察・撮影されている」と記述されている。また、この記録は、茂田・尾崎(1999)にも掲載され「茂田が、加藤聡氏の1987年10月4・5日に撮影した写真を送り、スウェーデンの Per Alström 氏ほかに

表3. キタヤナギムシクイ *Phylloscopus trochilus*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載、 撮影者	出典	関連文献
1	1981.10.29	福岡県	福岡市東区 奈多	—	—	1	山階 鳥類 研究所	死体拾得， 足環のみ 確認	—	18	7, 19, 20
2	1987.10.4-5	石川県	輪島市 舳倉島	おそらく 第一回 冬羽	—	—	加藤 聡， 栗崎	撮影	カラー2， 加藤 聡	6	9, 10, 17, 18
3 P	1993.11.15	石川県	輪島市 舳倉島	—	—	—	渡部良樹	撮影	カラー1， 渡部良樹	2	3, 4
4 P	1998.9.19	石川県	舳倉島	—	—	—	山形則男	撮影	カラー1， 山形則男	3	4
5 P	1998.9.20	石川県	舳倉島	—	—	—	山形則男	撮影	カラー2， 山形則男	3	4
6 D	1998.10.10 -11	石川県	輪島市舳倉島	—	—	1	小山慎司	撮影	—	12	
7 D	1998.10.12	石川県	輪島市舳倉島	—	—	—	橘 映州	観察	—	11	
8 D	1998.10.16	石川県	輪島市舳倉島	—	—	1	笹原裕二	撮影	—	11	
9 D	1999.5.31	石川県	輪島市舳倉島	—	—	1	大西敏一他	観察	—	12	
10 D	1999.10.17	石川県	輪島市舳倉島	—	—	1	天野重豊	観察	—	12	
11 D	1999.10.18	石川県	輪島市舳倉島	—	—	1	笹原裕二， 橘 映州	観察	—	12	
12 D	2001.5.13	石川県	輪島市舳倉島	—	—	1	橘 映州	観察	—	13	
13 D	2001.9.23	石川県	輪島市舳倉島	—	—	3	小山慎司， 渡辺靖夫	観察， 撮影	—	13	
14	2001.9.28	鹿児島県	大島郡 瀬戸内町 高知山	第一回 冬羽	オス	1	永田尚志， 鳥飼久裕， 斉藤武馬	捕獲， 標識	モノクロ2	8	21
15 D	2001.10.8	石川県	輪島市舳倉島	—	—	1	小山慎司， 文屋 誠	観察	—	13	
16 D	2001.10.9	石川県	輪島市舳倉島	—	—	1	橘 映州， 山森政昭	観察	—	13	
17 D	2002.9.5	石川県	輪島市舳倉島	—	—	1	渡部良樹	観察	—	14	
18 D	2002.9.26	石川県	輪島市舳倉島	—	—	1	橘 映州	観察	—	14	
19 D	2003.9.26	石川県	輪島市舳倉島	—	—	1	渡部良樹	観察	—	15	
20 D	2004.9.23	石川県	輪島市舳倉島	—	—	1	渡部良樹	観察	—	16	
21 D	2004.9.25	石川県	輪島市舳倉島	—	—	1	梅垣佑介， 小島 渉	観察	—	16	
22 D	2004.9.26 -27	石川県	輪島市舳倉島	—	—	1	橘 映州	観察	—	16	
23 D	2004.10.7 -8	石川県	輪島市舳倉島	—	—	1	橘 映州	観察	—	16	
24 D	2004.10.13	石川県	輪島市舳倉島	—	—	1	橘 映州	観察	—	16	

—: 記述なし・掲載なし

D: 最小限の記述(種名, 記録地, 年月日, 記録者など)のみ

P: 写真と最小限の記述(種名, 記録地, 年月日, 記録者など)のみ

問い合わせたところでは亜種は不明であるが、本種に間違いはないという回答が得られている」と記述されている。ただし、茂田・尾崎(1999)には、Alström氏らがこの個体をキタヤナギムシクイと同等した根拠については全く掲載されていない。

記録3(バーダー編集部1998), 記録4, 5(五百沢ら2000), 記録6(日本野鳥の会石川支部2000), 記録7, 8(日本野鳥の会石川支部1999),

記録9, 10, 11(日本野鳥の会石川支部2000), 記録12, 13, 15, 16(日本野鳥の会石川支部2002), 記録17, 18(日本野鳥の会石川支部2004a), 記録19(日本野鳥の会石川支部2004b), 記録20, 21, 22, 23, 24(日本野鳥の会石川支部2005)は、いずれも石川県舳倉島で記録されたもので、記録された個体について記録年月日, 場所, 記録者などの基本的な情報のみが掲載されて

いる。これらの記録の中には、記録年月日が連続していること、もしくは極めて近いことから、同一個体の記録と推測されるものもあるが、そのことに言及した文献が確認できないので、ここでは別個の記録として扱った。記録3の写真は五百沢(2000, 2004)、記録4, 5の写真は五百沢(2004)に掲載されている。

記録14(永田ら 2002)は、鹿児島県奄美大島で記録されたもので、記録された個体の形態、mtDNAチトクロームb領域の塩基配列情報、同定の根拠などが掲載されている。永田ら(2002)は、この記録の個体について「亜種 *acredula* と亜種 *yakutensis* の形態には、クラインがあるので両亜種間の判定は難しいが、塩基配列の違いと分布域から考慮して亜種 *yakutensis* の可能性が高いと推測される」としている。この記録の記録年月日について永田ら(2002)は、本文で2001年9月28日、英文要約と図の説明では2001年9月27日としているが、2001年9月28日が正しいとのことである(永田尚志氏私信)。この記録は、山階鳥類研究所(2002)にも掲載されているが、記録地を「瀬戸内町高地」と記述している。この記録地については、永田ら(2002)に掲載されている「瀬戸内町高知山」が正しいとのことである(永田尚志氏私信)。永田ら(2002)、山階鳥類研究所(2002)によれば、この記録が本種の日本における初標識記録である。

この他、アルストレム・オルソン(1987)によれば、1984年9月24日に佐賀県有明海岸においてキタヤナギムシクイまたはチフチャフと考えられる個体が観察されている。しかし、アルストレム・オルソン(1987)は、記録された個体について「キタヤナギムシクイの亜種 *yakutensis* にほぼ間違いはないが、十分観察できなかったので、明らかにチフチャフでないとは言えない」とし、種名を確定していない。従って、ここでは参考として挙げるにとどめる。

日本鳥類目録改訂第6版は、上記24記録のうち、記録1のみを本文に採用している。Morioka(2000)は、本種が日本鳥類目録改訂第6版本文へ採用される根拠となった記録を「1例の観察記録(写真1枚)」(原文英語)と記述している。しかし、記録1の個体については、標本も写真もないことが知られており(日本野鳥の会野鳥記録委員会 1989)、Morioka(2000)の記述と日本鳥類目録改訂第6版本文の記述とは一致しない。なお、Morioka(2000)は、上記「観察記録」について地理的な理由から亜種 *P. t. yakutensis* であるとしてい

るが、記録の詳細については記述していない。

引用文献(文献番号は、表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. アルストレム, ペール・オルソン, ウルバン(1987) 1984年秋に観察した日本では希な鳥類について. *Strix* 6: 105-108.
2. バーダー編集部(1998) ムシクイ類大集合. *Birder* 12(11): 10-21.
3. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸(2000) 日本の鳥 550山野の鳥. 文一総合出版, 東京.
4. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸(2004) 日本の鳥 550山野の鳥増補改訂版. 文一総合出版, 東京.
5. Morioka H(2000) Taxonomic notes on passerine species. In: Committee for check-list of Japanese birds ((ed.) *Check-list of Japanese birds sixth revised edition*): 291-325. The Ornithological Society of Japan, Obihiro.
6. 森岡照明(1998) 新しい識別の試み第10回キタヤナギムシクイ. *Birder* 12(2): 62-65, 97.
7. 無記名(1984) 日本初・ヤナギムシクイが福岡市で! 鳥学ニュース(15): 7.
8. 永田尚志・鳥飼久裕・斉藤武馬(2002) 奄美大島におけるキタヤナギムシクイ *Phylloscopus trochilus* の日本初標識記録. 日鳥学誌 51(1): 87-91.
9. 日本野鳥の会(1988) 日本に舞い降りた野鳥たち. 野鳥 53(4): 10-21.
10. 日本野鳥の会石川支部編(1998) 石川の自然環境シリーズ石川県の鳥類. 石川県環境安全部自然保護課, 金沢.
11. 日本野鳥の会石川支部(1999) 石川野鳥年鑑 1998. 日本野鳥の会石川支部, 金沢.
12. 日本野鳥の会石川支部(2000) 石川野鳥年鑑 1999. 日本野鳥の会石川支部, 金沢.
13. 日本野鳥の会石川支部(2002) 石川野鳥年鑑 2001. 日本野鳥の会石川支部, 金沢.
14. 日本野鳥の会石川支部(2004a) 石川野鳥年鑑 2002. 日本野鳥の会石川支部, 金沢.
15. 日本野鳥の会石川支部(2004b) 石川野鳥年鑑 2003. 日本野鳥の会石川支部, 金沢.
16. 日本野鳥の会石川支部(2005) 石川野鳥年鑑 2004. 日本野鳥の会石川支部, 金沢.
17. 日本野鳥の会野鳥記録委員会(1989) 日本初記録の野鳥. 野鳥 54(1): 38-43.
18. 茂田良光・尾崎清明(1999) 標識調査で確認された日本新記録の鳥種(1). 鳥類標識誌 14(1): 1-9.
19. 鳥学ニュース編集部(1985) 前15号の訂正とおわび. 鳥学ニュース(16): 10.
20. 山階鳥類研究所標識研究室(1985) 昭和59年度鳥類観測ステーション報告. 山階鳥類研究所, 我孫子.
21. 山階鳥類研究所(2002) 平成13年度鳥類標識調査業務報告書(鳥類観測ステーション運営). 山階鳥類研究所, 我孫子.

36. チフチャフ *Phylloscopus collybita* (表4)

日本鳥類目録改訂第6版では、記録として3例が挙げられており、全て亜種チフチャフ *P. c. tristis* とされている。本委員会の調査により、文献上23例の記録が確認された(表4)。

記録1(大西・湯浅 1999)は、石川県舳倉島で記録されたもので、記録された個体について記録年月日の他「舳倉島において本種と考えられる個体を観察しており(大西未発表)」との記述のみが掲載されている(本種とはチフチャフ *P. collybita*)。

記録2(大西・湯浅 1999)は、富山県富山市蓮町にて記録されたもので、記録時の状況と環境、記録された個体の形態、剖検結果などが掲載されている。大西・湯浅(1999)によれば、この記録は、落鳥していた個体が地域の児童によって拾得されたもので、死後硬直が見られたことから拾得された年月日が「死亡日だと考えられる」としている。拾得された個体の標本は、湯浅純孝氏により保管されている(大西・湯浅 1999)。大西・湯浅(1999)は、記録された個体を羽色や測定値から「亜種 *tristis* と判断した」と記述し、本記録を「チフチャフの日本での初記録になると思われる」としている。

記録3(大西・湯浅 1999)は、石川県舳倉島で記録されたもので、記録された個体について記録年月日の他「舳倉島において本種と考えられる個体を観察しており(大西未発表)」との記述のみが掲載されている(本種とはチフチャフ *P. collybita*)。

記録4(大西・湯浅 1999)は、石川県舳倉島で記録されたもので、記録された個体の形態、行動などについて掲載されている。記録された個体の形態、行動、同定の根拠などは、写真(1997年11月3日岡村雄三氏撮影, 1997年11月9日渡辺靖夫氏撮影)とともに森岡(1998)にも掲載されている。森岡(1998)、大西・湯浅(1999)は、この記録の個体を亜種チフチャフ *P. c. tristis* であるとしている。

記録5(大西・湯浅 1999)は、石川県舳倉島で記録されたもので、記録時の状況と環境、記録された個体の形態、行動などについて掲載されており、記録された個体を亜種チフチャフ *P. c. tristis* であると結論づけている。この記録は、記録4と同所で記録され、記録年月日が一部重なるが、大西・湯浅(1999)は「別個体と思われる」と記述しており、森岡(1998)も「渡辺靖夫氏により2個体

が同時に見られている」と記述している。

記録4および記録5が同時に観察されていた期間にあたる1997年11月6日に舳倉島で撮影された本種の写真が橘(1999)に掲載され、同じく1997年11月9日に渡辺靖夫氏によって同所で撮影された写真が五百沢ら(2000, 2004)に掲載されている。しかし、これらの写真が記録4、記録5のどちらに該当するのかは、明記されておらず不明である。

記録6(大西・湯浅 1999)は、大阪府守口市にて記録されたもので、記録時の状況と環境、記録された個体の形態、行動などについて掲載されており、記録された個体を亜種チフチャフ *P. c. tristis* であると結論づけている。この記録は、最初、大阪の鳥記録委員会(1998)によって発表されたが、吉田(1998)により同定に疑問が呈され、それに答える形で大西(1998)により同定の根拠や妥当性が詳述されたという経緯がある。なお、大阪の鳥記録委員会(1998)には、記録者について「観察者: 木村吉典, 大西敏一, 小山慎司ほか多数」と掲載されている。また、この記録は、森岡(1998)、日本野鳥の会大阪支部(2002)にも掲載されており、日本野鳥の会大阪支部(2002)には、記録地について「守口市の淀川河川公園」と掲載されている。また、記録された個体の写真は、大阪の鳥記録委員会(1998)、日本野鳥の会大阪支部(2002)にも掲載されている。

記録7(脇坂 1998)は、島根県斐伊川にて記録されたもので、記録時の状況と環境、記録された個体の形態について掲載されている。脇坂(1998)は、記録された個体を亜種チフチャフ *P. c. tristis* としているが、同定の根拠については「本種は山階鳥類研究所標識研究室に写真により同定していただいた」とのみ記述している。脇坂(1998)には、記録された個体の測定値が掲載されているが、尾長とふ臈長の値が逆に示されている(脇坂英弥氏私信)。この記録は、大西・湯浅(1999)、真木・大西(2000)、山階鳥類研究所(1999, 2002)にも掲載されており、記録された個体の写真(脇坂英弥氏撮影)は、バーダー編集部(1998)、山階鳥類研究所(1999)にも掲載されている。山階鳥類研究所(1999)は、記録された個体を羽色から亜種チフチャフ *P. c. tristis* としているが、羽色についての具体的な記述は掲載されていない。脇坂(1998)、山階鳥類研究所(2002)は、この記録が日本における初標識記録であるとしている。

記録8, 9, 10, 11, 12(日本野鳥の会石川支部 2001)、記録14, 15, 16, 17, 18, 19(日本野

表4. チフチャフ *Phylloscopus collybita*

No.	記録 年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	1994.11.5	石川県	舂倉島	—	—	—	大西敏一	観察	—	16	
2	1996.11.22	富山県	富山市蓮町地内 馬場記念公園	—	オス	1	大西敏一, 湯浅純孝	死体 拾得	モノクロ2, 大西敏一	16	
3	1997.4.27	石川県	舂倉島	—	—	—	大西敏一	観察	—	16	
4	1997.11.2-9	石川県	舂倉島	—	—	1	大西敏一, 湯浅純孝	観察	—(関連文 献にあり)	16	7
5	1997.11.6-9	石川県	舂倉島	—	—	1	橋 映州, 渡辺靖夫	観察	モノクロ1, 渡辺靖夫	16	
6	1997.11.8-11	大阪府	守口市八雲 野草地区 (淀川河川敷)	—	—	1	大西敏一, 湯浅純孝, 木村吉典	観察, 撮影	モノクロ1, 木村吉典	16	7, 14, 15, 17, 22
7	1998.4.11	島根県	平田市 斐伊川河口部 左岸河川敷	成鳥	不明	1	脇坂英弥	捕獲, 標識, 撮影	モノクロ2	19	1, 5, 16, 20, 21
8 D	2000.10.3	石川県	輪島市舂倉島	—	—	1	笹原裕二	観察	—	11	
9 D	2000.10.6	石川県	輪島市舂倉島	—	—	1	山森政昭	観察	—	11	
10 D	2000.10.22	石川県	輪島市舂倉島	—	—	1	加藤 聡, 加藤明子, 平野賢次, 大門久之他	観察	—	11	
11 D	2000.10.27	石川県	輪島市舂倉島	—	—	1	山森政昭	観察	—	11	
12 D	2000.10.31, 11.3-5	石川県	輪島市舂倉島	—	—	1	橋 映州	観察	—(関連文 献にあり)	11	4
13	2001.11.24	宮城県	遠田郡蕪栗沼	J	不明	1	中塩一夫	捕獲, 標識	—	21	
14 D	2003.4.24	石川県	輪島市舂倉島	—	—	1	橋 映州	観察	—	12	
15 D	2003.5.13 -14	石川県	輪島市舂倉島	—	—	1	橋 映州	観察	—	12	
16 D	2003.5.25	石川県	輪島市舂倉島	—	—	1	橋 映州	観察	—	12	
17 D	2003.10.2	石川県	輪島市舂倉島	—	—	1	橋 映州	観察	—	12	
18 D	2003.10. 11-12	石川県	輪島市舂倉島	—	—	1	笹原裕二	観察	—	12	
19 D	2003.11.13	石川県	輪島市舂倉島	—	—	1	橋 映州	観察	—	12	
20 D	2004.11.2-3, 5	石川県	輪島市舂倉島	—	—	1	橋 映州	観察	—	13	
21	2005.3.14	福岡県	西区今津田尻	—	—	1	長井節夫他	観察	—	8	
22	2005.4.17	福岡県	西区今津田尻	—	—	1	古屋誠治他	観察	—	9	
23	2005.4.19	福岡県	西区今津田尻	—	—	1	長井節夫他	観察	—	10	

—: 記述なし・掲載なし

D: 最小限の記述(種名, 記録地, 年月日, 記録者など)のみ

鳥の会石川支部 2004), 記録20(日本野鳥の会石川支部 2005)は, いずれも石川県舂倉島で記録されたもので, 記録された個体について記録年月日, 場所, 記録者などの基本的な情報のみが掲載されている。これらの記録の中には, 記録年月日が連続もしくは極めて近いことから, 同一個体による記録と推測されるものもあるが, そのことに言及した文献が確認できないので, ここでは別個の記録として扱った。記録12と同一個体と思われる写真(黒田昌紀氏撮影)は, 亀谷(2001)に掲載されているが, 撮影地は「石川県輪島市」とのみ記

述されている。また, 記録12の記録最終日の2000年11月5日の記録が, 日本野鳥の会石川支部(2001)に広瀬弘一氏の観察として掲載されている。この記録と記録12が同一であるとの記述はないが, 同一日の記録であることから, 表には記録12のみ掲載した。

記録13(山階鳥類研究所 2002)は, 宮城県蕪栗沼で記録されたもので, 記録された個体について記録年月日, 場所, 記録者などの基本的な情報と測定値および, 日本国内で2例目の標識記録であることが掲載されている。

記録 21 (無記名 2005a), 記録 22 (無記名 2005b), 記録 23 (無記名 2005c) は, いずれも福岡県今津で記録されたもので, 記録された個体について記録月日, 場所, 記録者などの基本的な情報のみが掲載されている他, 無記名 (2005a) には, 記録された個体が1月から出現しているとの記述, 無記名 (2005b, 2005c) には, 記録された個体の囀りについての記述が掲載されている。無記名 (2005a, 2005b, 2005c) には, 記録年の記述が欠けているが, 掲載された会報の発行年から, 記録されたのはいずれも2005年であると考えられる。

この他, 真木・大西 (2000) には, 本種が島根県隠岐諸島で記録されたことが掲載されているが, 記録年月日などの詳細が掲載されている文献を確認できなかったため, ここでは参考として挙げるにとどめる。

日本鳥類目録改訂第6版は, 上記23記録のうち, 記録2, 記録4もしくは記録5, 記録6を本文に採用している。Morioka (2000) は, 本種が日本鳥類目録改訂第6版本文へ採用される根拠となった記録を「1例の観察記録(写真複数)」(原文英語)と記述しているのみで, どの記録に基づいて採用したのかは不明である。また, Morioka (2000) は, チフチャフ *P. collybita* に亜種を認めておらず, 日本鳥類目録改訂第6版本文がチフチャフ *P. collybita* に亜種チフチャフ *P. c. tristis* を認め, 日本国内の記録を全てこの亜種に含めていることと矛盾を生じている。

引用文献(文献番号は, 表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

- バーダー編集部 (1998) ムシクイ類大集合。Birder 12(11): 10-21。
- 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸 (2000) 日本の鳥 550山野の鳥。文一総合出版, 東京。
- 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸 (2004) 日本の鳥 550山野の鳥 増補改訂版。文一総合出版, 東京。
- 亀谷辰朗 (2001) 2000年, 日本に舞い降りた珍鳥たち。Birder 15(6): 62-65。
- 真木広造・大西敏一 (2000) 決定版日本の野鳥 590。平凡社, 東京。
- Morioka H (2000) Taxonomic notes on passerine species. In: Committee for check-list of Japanese birds (ed.) *Check-list of Japanese birds sixth revised edition*: 291-325. The Ornithological Society of Japan, Obihiro.
- 森岡照明 (1998) 新しい識別の試み第12回 舳倉島のチフチャフ。Birder 12(4): 66-69, 105。
- 無記名 (2005a) 鳥信・野鳥だより・ふくおか (306): 6-7。
- 無記名 (2005b) 鳥信・野鳥だより・ふくおか (307): 6-7。
- 無記名 (2005c) 鳥信・野鳥だより・ふくおか (308): 6-7。
- 日本野鳥の会石川支部 (2001) 石川野鳥年鑑 2000。日本野鳥の会石川支部, 金沢。
- 日本野鳥の会石川支部 (2004) 石川野鳥年鑑 2003。日本野鳥の会石川支部, 金沢。
- 日本野鳥の会石川支部 (2005) 石川野鳥年鑑 2004。日本野鳥の会石川支部, 金沢。
- 日本野鳥の会大阪支部 (2002) 大阪府鳥類目録 2001。日本野鳥の会大阪支部, 大阪。
- 大西敏一 (1998) 97年秋に守口市八雲野草地区に現れたメボソムシクイ属 *Phylloscopus* について。むくどり通信 (135): 9-11。
- 大西敏一・湯浅純孝 (1999) 日本におけるチフチャフ *Phylloscopus collybita tristis* の初記録。日鳥学誌 47(2): 73-76。
- 大阪の鳥記録委員会 (1998) 大阪の鳥 No. 324 チフチャフ。むくどり通信 (133): 8。
- 橋 映州 (1999) 舳倉島の鳥たち 能登半島沖 50 km。橋本確文堂企画出版室, 金沢。
- 脇坂英弥 (1998) 島根県斐伊川におけるチフチャフの初標識記録。鳥類標識誌 13(2): 56-58。
- 山階鳥類研究所 (1999) 平成10年度鳥類標識調査業務報告書(鳥類観測ステーション運営)。山階鳥類研究所, 我孫子。
- 山階鳥類研究所 (2002) 平成13年度鳥類標識調査業務報告書(鳥類観測ステーション運営)。山階鳥類研究所, 我孫子。
- 吉田 學 (1998) チフチャフに関する記録委への質問。むくどり通信 (134): 9-10。
- モリムシクイ *Phylloscopus sibilatrix* (表5)
日本鳥類目録改訂第6版では, 記録として2例が挙げられている。本委員会の調査により, 文献上16例の記録が確認された(表5)。
記録1(アルストレム・オルソン 1987) は, 石川県舳倉島で記録されたもので, 記録時の状況, 記録された個体の形態と鳴き声が掲載されている。アルストレム・オルソン (1987) には識別点についての記述とスケッチも掲載されているが, 本種についての一般的な情報を記述したものであり, 同定の根拠を本記録の個体について具体的に述べたものではない。この記録は, Brazil (1991), バーダー編集部 (1993), 森岡 (1997), 茂田・尾崎 (1999) にも掲載されている。
記録2(バーダー編集部 1993) は, 石川県舳倉島で記録されたもので, 記録年月日, 記録地, 記録者のみが写真のキャプションとして掲載されている。この記録は, 森岡 (1997), 茂田・尾崎 (1999) にも掲載されている。
記録3(茂田・尾崎 1999) は, 北海道苫小牧市で記録されたもので, 記録された個体については,

表5. モリムシクイ *Phylloscopus sibilatrix*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	1984.10.8	石川県	舳倉島	—	—	1	アルストレム,	観察	—	1	2, 5, 11, 20
2 P	1990.10.12	石川県	舳倉島	—	—	1	小山慎司	撮影	カラー1, 小山慎司	2	11, 20
3	1991.10.9	北海道	苫小牧市 糸井宮の森	不明	不明	1	佐田正行	捕獲, 標識, 撮影	モノクロ1, 佐田正行	20	2, 6, 9, 11, 21
4	1993.9.23-24	石川県	輪島市舳倉島	—	—	1	二階堂善滋, 笠野英明, 土方秀行, 高瀬久義, 高瀬民子	観察, 撮影	モノクロ1, 笠野英明	12	11, 20
5	1994.10.16	石川県	舳倉島	成鳥	—	1	栗崎 鋼, 小沢重雄	観察, 撮影	カラー1, 栗崎 鋼	11	20
6 P	1994.10.18	石川県	舳倉島	—	—	1	渡部良樹	撮影	カラー1, 渡部良樹	3	
7 P	1997.10.上旬	石川県	舳倉島	—	—	—	吉野俊幸	撮影	カラー2, 吉野俊幸	7	8
8 D	1998.9.26	石川県	輪島市舳倉島	—	—	1	笹原裕二, 小山慎司	撮影	—	13	
9 D	2002.9.15	石川県	輪島市舳倉島	—	—	1	笹原裕二	観察	—	17	
10 D	2002.9.22	石川県	輪島市舳倉島	—	—	1	笹原裕二	観察	—	17	
11 P	2002.9.23	石川県	輪島市舳倉島	—	—	1	後藤義仁	撮影	カラー1, 後藤義仁	4	8, 17
12 D	2004.9.23	石川県	輪島市舳倉島	—	—	1	渡部良樹	観察	—	19	
13 D	2004.9.24-25	石川県	輪島市舳倉島	—	—	1	海垣佑介, 小島 涉, 中村正博	観察	—	19	
14 D	2004.9.26-27	石川県	輪島市舳倉島	—	—	1	橋 映州	観察	—	19	
15 D	2004.10.2	石川県	輪島市舳倉島	—	—	1	山森政昭, 笹原裕二	観察, 撮影	—	19	
16 D	2004.11.2	石川県	輪島市舳倉島	—	—	1	矢田新平, 杉坂 学	観察, 撮影	—	19	

—: 記述なし・掲載なし

D: 最小限の記述(種名, 記録地, 年月日, 記録者など)のみ

P: 写真と最小限の記述(種名, 記録地, 年月日, 記録者など)のみ

記録年月日, 記録地, 記録者, 測定値と足環の番号の他「放鳥された個体の羽色と測定値から, 本種であることは疑いない」との記述のみが掲載されている。しかし, 茂田・尾崎(1999)には, 記録された個体の羽色についての記述は掲載されていない。この記録は, 山階鳥類研究所標識研究室(1992)にも写真とともに掲載されており「この記録は標識初記録であると同時に日本国内での本種の最初の記録となる」と記述されている。茂田・尾崎(1999)には, 記録された個体の尾長が47mmと記述されており, 山階鳥類研究所標識研究室(1992)に掲載されている尾長43mmとは異なっているが, 47mmが正しいとのことである(佐田正行氏私信)。この記録は, バーダー編集部(1993),

森岡(1997), 藤巻(2000), 真木・大西(2000)にも掲載されている。

記録4(無記名1993)は, 石川県舳倉島で記録されたもので, 記録時の状況, 記録者, 記録された個体の形態などについて記述されている。この個体の形態的特徴と写真(笠野英明氏撮影)は, 森岡(1997)にも掲載されており, 記録された個体の年齢を「第1回冬羽」としている。この記録は, 茂田・尾崎(1999)にも掲載されている。

記録5(森岡1997)は, 石川県舳倉島で記録されたもので, 記録年月日, 記録者, 記録された個体の年齢と形態について記述されている。この記録は, 茂田・尾崎(1999)にも掲載されている。

記録6(バーダー編集部1998), 記録7(五百沢

ら 2000), 記録8(日本野鳥の会石川支部 1999), 記録9, 10(日本野鳥の会石川支部 2004a), 記録11(バーダー編集部 2003), 記録12, 13, 14, 15, 16(日本野鳥の会石川支部 2005)は, いずれも石川県舩倉島で記録されたもので, 記録された個体について記録年月日, 場所, 記録者などの基本的な情報のみが掲載されている。これらの記録の中には, 記録年月日が連続していること, もしくは極めて近いことから, 同一個体の記録と推測されるものもあるが, そのことに言及した文献が確認できないので, ここでは別個の記録として扱った。記録7と記録11の写真は五百沢ら(2004)にも掲載されている。記録11は, 日本野鳥の会石川支部(2004a)にも掲載されているが, 記録者は広瀬弘一氏である。

この他, 日本野鳥の会石川支部(1999, 2000, 2001, 2002, 2004a, 2004b, 2005)掲載の「石川県年別記録リスト」には, 1996年に舩倉島で本種の記録があったことが記号で示されている。しかし, この記録が掲載されている文献は他になく, 記録月日や記録者などの詳細は不明とのことである(平野賢次氏私信)。従って, ここでは参考として挙げるにとどめる。

日本鳥類目録改訂第6版は, 以上16記録のうち記録1と記録3のみを本文に採用している。Morioka(2000)は, 本種が日本鳥類目録改訂第6版本文へ採用される根拠となった記録を「1例の観察記録(写真1枚)」(原文英語)と記述している。しかし, 記録1は観察されたのみで写真はなく, 記録3は写真はあるものの観察記録ではなく捕獲・標識されたものである。従って, Morioka(2000)の記述と日本鳥類目録改訂第6版本文の記述とは一致しない。

引用文献(文献番号は, 表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. アルストロム, ペール・オルソン, ウルバン(1987) 1984年秋に観察した日本では希な鳥類について。Strix 6: 105-108.
2. バーダー編集部(1993) 続珍鳥・迷鳥大集合!! Birder 7(7): 8, 9, 12, 13, 22, 23.
3. バーダー編集部(1998) ムシクイ類大集合。Birder 12(11): 10-21.
4. バーダー編集部編(2003) 写真集日本の鳥 2002。文一総合出版, 東京。
5. Brazil MA(1991) *The Birds of Japan*. Christopher Helm, London.
6. 藤巻裕蔵(2000) 北海道鳥類目録改訂2版。帯広畜産大学野生動物管理学研究室, 帯広。
7. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸(2000) 日本の鳥 550山野の鳥。文一総合出版, 東京。
8. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸(2004) 日本の鳥 550山野の鳥増補改訂版。文一総合出版, 東京。
9. 真木広造・大西敏一(2000) 決定版 日本の野鳥 590。平凡社, 東京。
10. Morioka H(2000) Taxonomic notes on passerine species. In: Committee for check-list of Japanese birds (ed.) *Check-list of Japanese birds sixth revised edition*: 291-325. The Ornithological Society of Japan, Obihiro.
11. 森岡照明(1997) 新しい識別の試み第7回モリムシクイ。Birder 11(11): 62-65, 97.
12. 無記名(1993) 今月の鳥!? モリムシクイ。Birder 7(12): 3.
13. 日本野鳥の会石川支部(1999) 石川野鳥年鑑 1998。日本野鳥の会石川支部, 金沢。
14. 日本野鳥の会石川支部(2000) 石川野鳥年鑑 1999。日本野鳥の会石川支部, 金沢。
15. 日本野鳥の会石川支部(2001) 石川野鳥年鑑 2000。日本野鳥の会石川支部, 金沢。
16. 日本野鳥の会石川支部(2002) 石川野鳥年鑑 2001。日本野鳥の会石川支部, 金沢。
17. 日本野鳥の会石川支部(2004a) 石川野鳥年鑑 2002。日本野鳥の会石川支部, 金沢。
18. 日本野鳥の会石川支部(2004b) 石川野鳥年鑑 2003。日本野鳥の会石川支部, 金沢。
19. 日本野鳥の会石川支部(2005) 石川野鳥年鑑 2004。日本野鳥の会石川支部, 金沢。
20. 茂田良光・尾崎清明(1999) 標識調査で確認された日本新記録の鳥種(1)。鳥類標識誌 14(1): 1-9。
21. 山階鳥類研究所標識研究室(1992) 平成3年度鳥類観測ステーション報告。山階鳥類研究所, 我孫子。

38. キバラムシクイ *Phylloscopus affinis* (表6)

日本鳥類目録改訂第6版本文には掲載されておらず, Appendix B 検討中の種・亜種にも含まれていない。本委員会の調査により, 文献上2例の記録が確認された(表6)。

記録1(森岡 1997)は, 石川県舩倉島で記録されたもので, 記録された個体の形態と鳴き声, 同定の根拠などが掲載されている。この個体の写真(小山慎司氏撮影)は, 五百沢ら(2004)にも掲載されている。

記録2(日本野鳥の会石川支部 2000)は, 石川県舩倉島で記録されたもので, 記録された個体について記録年月日, 場所, 記録者などの基本的な情報のみが掲載されている。日本野鳥の会石川支部(2000)には, 撮影された写真があることが記述されているが, 掲載はされていない。この個体の写真(内海孝司氏撮影)は, バーダー編集部(2000)に掲載されている。バーダー編集部(2000)によれば, この個体は1999年5月27日が終認日である。

表6. キバラムシクイ *Phylloscopus affinis*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	1995.5.19-20	石川県	輪島市舳倉島	—	—	—	真木広造, 笠野英明	観察, 撮影	カラー2, 真木広造, 笠野英明	4	2
2 D	1999.5.23-26	石川県	輪島市舳倉島	—	—	1	小山慎司, 大西敏一, 橋 映州, 山森政昭, 天野重豊他	観察, 撮影	— (関連文献にあり)	3	1

—: 記述なし・掲載なし

D: 最小限の記述(種名, 記録地, 年月日, 記録者など)のみ

表7. ヤナギムシクイ *Phylloscopus trochiloides*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1 D	1999.5	石川県	舳倉島	—	—	—	—	観察	—	1	2
2 D	2002.5.26	石川県	輪島市舳倉島	—	—	1	橋 映州	観察	—	3	

—: 記述なし・掲載なし

D: 最小限の記述(種名, 記録地, 年月日)のみ

引用文献(文献番号は, 表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. バーダー編集部(2000) 1999年, 日本に舞い降りた珍鳥たち. Birder 14(6): 66-73.
2. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸(2004) 日本の鳥 550山野の鳥増補改訂版. 文一総合出版, 東京.
3. 日本野鳥の会石川支部(2000) 石川野鳥年鑑 1999. 日本野鳥の会石川支部, 金沢.
4. 森岡照明(1997) 新しい識別の試み第6回オリーブシクイ? キバラムシクイ? それともバファイロムシクイ? Birder 11(10): 62-65, 105.

39. ヤナギムシクイ *Phylloscopus trochiloides* (表7)

日本鳥類目録改訂第6本文には掲載されておらず, Appendix B 検討中の種・亜種にも含まれていない. 本委員会の調査により, 文献上2例の記録が確認された(表7).

記録1(真木・大西 2000)は, 石川県舳倉島で記録されたもので, 記録年月と記録地のみが掲載されている. この記録は, 日本野鳥の会石川支部(2001)にも掲載されている.

記録2(日本野鳥の会石川支部 2004)は, 石川県舳倉島で記録されたもので, 記録年月日, 記録地, 羽数, 記録者のみが掲載されている. なお, 日本野鳥の会石川支部(2004)は, 本種とフタオビ

ヤナギムシクイ *P. plumbeitarsus* を同種内亜種として扱っている. 記録2は, 種名のみが掲載されており, 亜種名が提示されていないので, 実際にはフタオビヤナギムシクイである可能性も考えられる.

この他, キタヤナギムシクイ *P. trochilus* の記録がヤナギムシクイとして記述されたことがあるが, その後訂正されている(本稿, キタヤナギムシクイの項, 記録1を参照のこと).

引用文献(文献番号は, 表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. 真木広造・大西敏一(2000) 決定版日本の野鳥 590. 平凡社, 東京.
2. 日本野鳥の会石川支部(2001) 石川野鳥年鑑 2000. 日本野鳥の会石川支部, 金沢.
3. 日本野鳥の会石川支部(2004) 石川野鳥年鑑 2002. 日本野鳥の会石川支部, 金沢.

40. フタオビヤナギムシクイ *Phylloscopus plumbeitarsus* (表8)

日本鳥類目録改訂第6本文には掲載されておらず, Appendix B 検討中の種・亜種にも含まれていない. 本委員会の調査により, 文献上6例の記録が確認された(表8).

記録1(真木・大西 2000)は, 石川県舳倉島で

表8. フタオビヤナギムシクイ *Phylloscopus plumbeitarsus*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1 D	1999.5	石川県	舳倉島	—	—	—	—	観察, 撮影	—	2	1, 4
2	2000.5.24-26	石川県	輪島市舳倉島	—	—	24日: 1, 25日: 3	渡部良樹, 西尾 勲, 他数名	観察, 撮影, スケッチ	カラー2, 渡部良樹	4	1, 2
3	2001.5.5	石川県	輪島市舳倉島	—	—	—	清水博之	撮影	カラー2, 清水博之	3	
4	2001.5.20	石川県	輪島市舳倉島	—	—	1	渡部良樹, 真木広造	観察, 撮影	— (関連文献にあり)	7	1, 3, 5
5 D	2001.5.29	石川県	輪島市舳倉島	—	—	1	橘 映州	観察	—	5	
6 D	2002.5.26	石川県	輪島市舳倉島	—	—	1	橘 映州	観察	—	6	

—: 記述なし・掲載なし

D: 最小限の記述(種名, 記録地, 年月日, 記録者など)のみ

記録されたもので, 記録年月と記録地の他「観察撮影された」とのみ掲載されている。この記録は, 日本野鳥の会石川支部(2001), 五百沢ら(2004)にも掲載されている。

記録2(日本野鳥の会石川支部 2001)は, 石川県舳倉島で記録されたもので, 記録時の状況と環境, 記録された個体の形態, 行動などが掲載されている。日本野鳥の会石川支部(2001)は, 本記録をもって石川県初記録としている。なお, 表8に掲載した記録2の記述は, 日本野鳥の会石川支部(2001)に掲載された「石川県初記録詳解 1. (フタオビ)ヤナギムシクイ」(p. 47-48)の記述を採用したが, 日本野鳥の会石川支部(2001)には「2000年石川県鳥類リスト」(p. 44)にも, この記録についての記述があり, 2000年5月24, 25日の記録者として渡部良樹氏と橘映州氏, 2000年5月26日の記録者として山森政昭氏が挙げられ, 26日に記録された個体数が1羽であることも掲載されている。この記録は, 真木・大西(2000), 五百沢ら(2004)にも掲載されている。

記録3(森岡 2002)は, 石川県舳倉島で記録されたもので, 記録された個体の形態や同定の根拠などが掲載されている。

記録4(渡部 2002)は, 石川県舳倉島で記録されたもので, 記録時の状況と環境, 記録された個体の形態, 行動などが掲載されている。日本野鳥の会石川支部(2002)の「2001年石川県鳥類リスト」(p. 52)にも, この記録についての記述があり, 記録者として「渡部良樹, 小山慎司, 真木広造, 大門久之, 広瀬弘一他」が掲載されている。この記録の写真は, 森岡(2002)に土橋信夫氏, 辻幸

治氏撮影のものが, 五百沢ら(2004)に松村伸夫氏撮影のものが掲載されている。

記録5(日本野鳥の会石川支部 2002), 記録6(日本野鳥の会石川支部 2004)は, いずれも石川県舳倉島で記録されたもので, 記録された個体について記録年月日, 場所, 記録者などの基本的な情報のみが掲載されている。

以上で引用した文献のうち, 真木・大西(2000)は, 本種を独立種として扱っているが, 日本野鳥の会石川支部(2001, 2002, 2004), 森岡(2002), 渡部(2002), 五百沢ら(2004)は, いずれも本種をヤナギムシクイ *P. trochiloides* の1亜種として扱っている。なお, 本種の和名フタオビヤナギムシクイは, 真木・大西(2000)により新称として提唱されたものである。

引用文献(文献番号は, 表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸(2004)日本の鳥550山野の鳥増補改訂版。文一総合出版, 東京。
2. 真木広造・大西敏一(2000)決定版日本の野鳥590。平凡社, 東京。
3. 森岡照明(2002)検討! 2001年5月5日舳倉島に出現したムシクイ類。Birder 16(9): 50-53。
4. 日本野鳥の会石川支部(2001)石川野鳥年鑑2000。日本野鳥の会石川支部, 金沢。
5. 日本野鳥の会石川支部(2002)石川野鳥年鑑2001。日本野鳥の会石川支部, 金沢。
6. 日本野鳥の会石川支部(2004)石川野鳥年鑑2002。日本野鳥の会石川支部, 金沢。
7. 渡部良樹(2002)Two-barred Greenish Warblerの観察記録(舳倉島にて)。日本野鳥の会石川支部(編)石川野鳥年鑑2001: 73, 日本野鳥の会石川支部, 金沢。

表9. マミハウチワドリ *Prinia subflava*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	1986.3.18	沖縄県	渡嘉敷島	—	—	1	D. W. McWhirter, Tsutomu Nakasone	観察	—	1	2, 3

—: 記述なし・掲載なし

41. マミハウチワドリ *Prinia subflava* (表9)

日本鳥類目録改訂第6本文には掲載されておらず, Appendix B 検討中の種・亜種にも含まれていない. 本委員会の調査により, 文献上1例の記録が確認された(表9).

記録1 (McWhirter *et al.* 1996) は, 沖縄県渡嘉敷島で記録されたもので, 記録年月日, 場所など基本的な記述と「この記録がおそらく日本初記録であるが, 証拠となる写真はない」(原文英語)との記述が本文に掲載されている. 記録時の状況や記録された個体の形態, 行動, 同定の根拠などについての記述は McWhirter *et al.* (1996) の Appendix に掲載されている.

この記録は, 真木・大西 (2000), 沖縄野鳥研究会 (2002) にも掲載されている. 沖縄野鳥研究会 (2002) では「写真掲載ができなかった確認種リスト」に掲載されており, 記録された個体について「1986年5月に渡嘉敷島で1個体が観察されている」との記述があるが, この記録月は誤植または誤引用である. なお, McWhirter *et al.* (1996), 真木・大西 (2000) は, 本種の学名として *Prinia inornata* を使用し, 沖縄野鳥研究会 (2002) は, *Prinia subflava* を使用している.

引用文献(文献番号は, 表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. McWhirter DW, Ikenaga H, Iozawa H, Shoyama M & Takehara K (1996) A Check-list of the birds of Okinawa Prefecture with notes on recent status including hypothetical records. Bulletin of the Okinawa Prefectural Museum (22): 33–152.
2. 真木広造・大西敏一 (2000) 決定版日本の野鳥 590. 平凡社, 東京.
3. 沖縄野鳥研究会 (2002) 沖縄の野鳥. 新報出版, 那覇.

この報告をまとめるにあたり, 文献の提供, 記録内容の確認などに協力していただいた, 青木則幸氏, 五百沢日丸氏, 梅木賢俊氏, 大西敏一氏, 片岡宣彦氏, 倉橋義弘氏, 古園由香氏, 小室智幸氏, 佐田正行氏, 田中史雄氏, 谷川智一氏, 永田尚志氏, 濱尾章二氏, 樋口孝城氏, 平野賢次氏, 藤巻裕蔵氏, 前田茂雄氏, 真野 徹氏, 山本友紀氏, 脇坂英弥氏, 渡部良樹氏には心より, お礼申し上げます.

*日本産鳥類記録委員会: 平岡 考・梶田学・池長裕史・亀谷辰朗・金井 裕・川路則友・西海 功・柳澤紀夫

追記:

校正段階で以下の事が明らかになった.

[引用文献は, 本文のチフチャフの項参照のこと]

チフチャフ(参考として挙げた隠岐諸島の記録)について

・真木・大西 (2000) には, 本種が島根県隠岐諸島で記録されたと掲載されているが, これは長崎県五島列島嵯峨ノ島における観察記録の誤記載とのことである(大西敏一氏私信).

チフチャフ(追加記録)

2003年11月2日に石川県輪島市舳倉島にて, 大野一郎氏により1羽が撮影された(日本野鳥の会石川支部2005).